



# 宮澤賢治と動物倫理

野家啓一（東北大学名誉教授）

# 1. 「ビヂテリアン大祭」を軸に



- 宮沢賢治 (1896[明治29]～1933[昭和8])
- ビヂテリアン (ベジタリアン、vegetarian、菜食主義者)
- 「ビヂテリアン大祭」：生前未発表、大正12頃(?)執筆
- 作者自身が菜食を実行するようになったのは宮沢清六氏によれば1918(大正7)年からという。(6-529～530)

## 2. 賢治晩年の時代状況

- 谷川雁『賢治初期童考』潮出版社、1985
- 「賢治の晩年は切迫していた。20世紀思想・芸術の若々しいほとばしりが、村の崩壊を擬似的におさえこもうとするスターリニズムとファシズムのはさみうちによってあっというまにせきとめられ、大衆の転向を利用してしめ殺される。その危機の本質にまともにとらえられていたからである。村はどこへゆくのか。たかが石灰肥料を多用したところでどうにもならないことは百も承知で、しかもそれぐらいしか外界に対してやることがない。この時期の本人にとって、現代の賢治ファンほどいらだたしいものはなかろう。村をまだ取り戻せるという錯覚をふりまく自然教の讚美歌にされたり、調子のよい宇宙論風のくりごとを引き出すための夕ネ本にされたり、敬意を払っているようでそのじつ自分の空虚感の埋め草にしているにすぎない。」（5～6頁）

### 3. 「ビジテリアン大祭」を読む (生前未発表：大正12頃？執筆)

- 「私は昨年9月4日、ニューファウンドランド島の小さな山村、ヒルティで行われた、ビジテリアン大祭に、日本の信者一同を代表して列席して参りました。」 (6-60)
- ビジテリアン vs. シカゴ畜産組合  
→ ディスカッション・ノベル
- 異稿「1931年度極東ビジテリアン大会見聞録」 (未完)
- 「第17回極東ビジテリアン大会。1931年9月4日正午より。日本、東北本線花巻駅乗換、花巻温泉紅葉館にて (松雲閣?)」

## 4. 「ビヂテリアン」の定義と分類

- 定義「元来ご承知のごとくビヂテリアンというのは動物質のものを食べないという考えのものの団結であり、日本では菜食主義者と訳するけれども主義者というよりは、むしろ菜食信者という方が、よく実際に適っているとも思われる。」（6-445）
- 分類：同情派「よくよく食べられる方になって考えてみると、とても可哀想でそんなことはできない」、予防派「自分の病気予防のために、なるべく動物質を食べない」（4-446）
- 方法：絶対派（動物質の物は決して何も食べない）、折衷派（あっさりしたもの[チーズ、バター、ミルク、卵など]は食べる）、大乘派（他の動物の敵になるものを選んで食べる）

## 5. シカゴ畜産組合の論難反駁

- 偏狭非文明的なるビヂテリアンを排す「この主張は、実に人類の食物の半分を奪おうと企てるものである。換言すれば、この主張者たちは、世界人類の半分、すなわち十億人を飢餓によつて殺そうと計画するものではないか。今日いずれの国の法律をもつてしても、殺人罪は一番重く罰せられる。(略) またこの事實は、ビヂテリアンたちの主張が畢竟自家撞着に終わることを示す。即ちビヂテリアンは動物を愛するが故に動物を食べないのであろう。何が故にその為に食物を得ないで死亡する、十億の人類を見殺しにするのであるか。人類もまた動物ではないか。」(6-65)

## 6. 宗教的観点からのビヂテリアン擁護

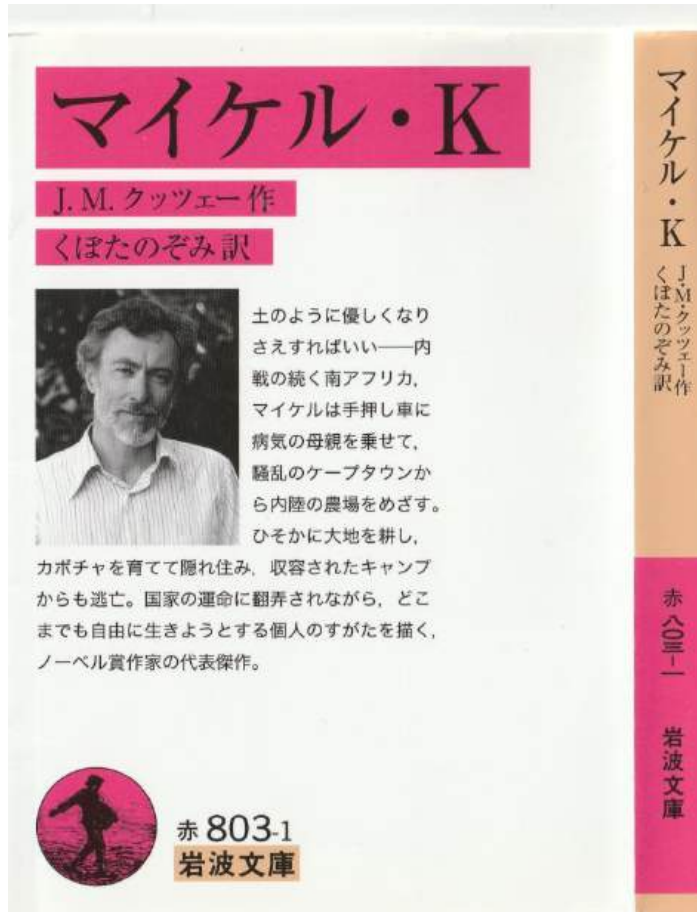
- 「私は次に宗教の精神より肉食しないことの当然を論じようと思う。キリスト教の精神は一言にしていわば神の愛であろう。(略) 畢竟は愛である。あらゆる生物に対する愛である。どうしてそれを殺して食べるのが当然のことであろう。」
- 「仏教の精神によるならば慈悲である。(略) 仏教の出発点は一切の生物がこのように苦しくこのようにかなしい我等とこれら一切の生物と諸共にこの苦の状態を離れたいというのである。(略) 一つのたましひはある時は人を感ずる。ある時は畜生、則ち我等が呼ぶ所の動物中に生れる。(略) だから我々のまわりの生物はみな永い間の親子兄弟である。異教の諸氏はこの考えをあまり真剣で恐ろしいと思うだろう。恐ろしいまでにこの世界は真剣な世界なのだ。」(6-103~104)

## 7. 「よだかの星」と原罪意識

- 「また一疋の甲虫が、夜だかののどに、はいりました。そしてまるで夜だかの咽喉をひっかいてばたばたしました。夜だかはそれを無理にのみこんでしまいましたが、その時、急に胸がどきっとして、夜だかは大声をあげて泣き出しました。」
  - （あゝ、かぶとむしや、たくさんの羽虫が、毎晩僕に殺される。そしてそのただ一つの僕がこんどは鷹に殺される。それがこんなに辛いのだ。あゝ、つらい、つらい。僕はもう虫を食べないで飢えて死のう。いやその前にもう鷹が僕を殺すだろう）
- 「存在罪」の原罪意識と解脱転生願望（天沢退二郎）
- 「近代日本文学が生みえた最も美しい、最も深い、最も高い精神の表現」（梅原猛『地獄の思想』）

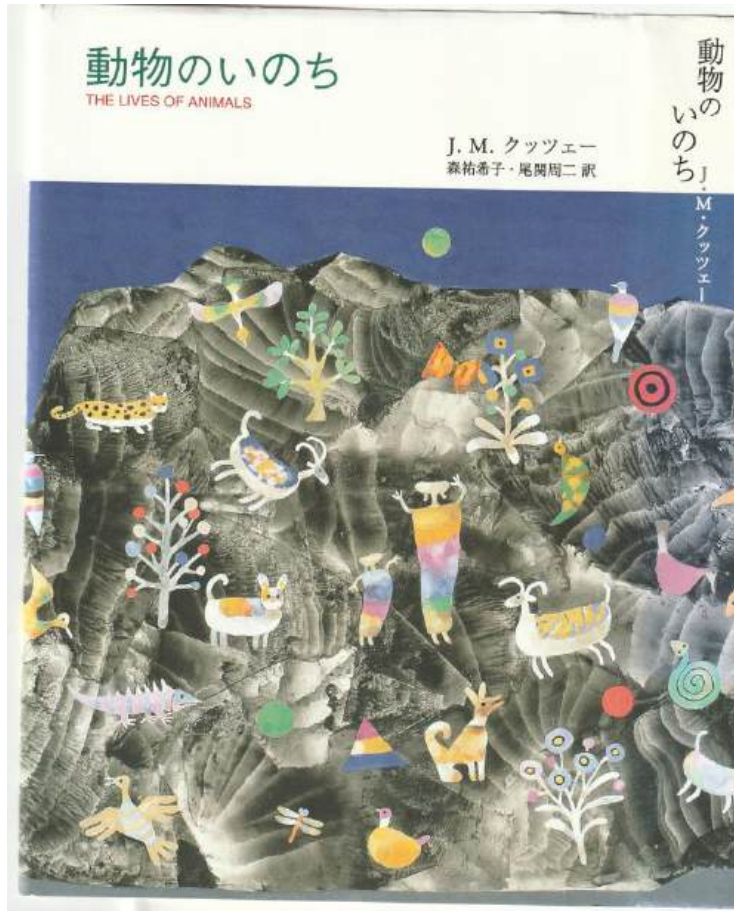


## 8. J.M.クッツェーと『動物のいのち』



- J.M. Coetzee
- 1940 南アフリカ、ケープタウンに生れる。
- ニューヨーク州立大学で教鞭を執るも、ベトナム反戦運動のため米国永住許可が下りず帰国
- 1983 『マイケル・K』で英国ブッカー賞
- 1999 『動物のいのち』
- 2003 ノーベル文学賞

# 9. プリンストン大学 「タナー記念講演」



- メタフィクションの講演
- エリザベス・コステロという老境の女性作家を登場させ、「哲学者と動物」「詩人と動物」という架空の講演を行わせ、その講演に動物倫理の代表的論客ピーター・シンガーをはじめ、宗教学者、文化人類学者、英文学者らが実際にコメントを寄せ、併せて一冊にまとめて出版した。

# 10. コステロの講演「哲学者と動物」

- 「率直に言わせて下さい。私たちは墮落と残酷と殺戮の企てに取り囲まれていて、それは第三帝国が行ったあらゆる行為に匹敵するものです。実際、私たちの行為は、終わりがなく、自己再生的で、ウサギを、ネズミを、家禽を、家畜を、殺すために絶え間なくこの世に送り込んでいるという点で、第三帝国の行為も顔色なしといったものなのです。」
  - 食肉の工場生産や動物実験は動物に対するホロコースト
- 「動物には意識がない。だから、の後です。だからどうなんでしょう？だから私たちは自分たちの目的のために、動物を好きなように利用していいというのでしょうか？だから動物を殺すのも自由だと？どうしてですか？」
  - 人種差別や女性差別とならぶ「種差別 (speciesism)」

# 11. [リフレクションズ]P.シンガー

- 「（シンガー）豚が幸せな生活を送っていて、それから痛みを与えないで殺されるとしよう。一匹の幸せな豚が殺されるごとに、新しいのが繁殖されて同じように幸せな生活を送る。だから、個々の豚を殺しても豚の幸せの全体量が、世の中から減るわけじゃないんだ。それのどこが悪いんだい？」
- 「（ネイオーミ）何を言ってるのよ。私たちがマックスを痛みがないように殺せて、かわりに別の仔犬を手に入れて、それで万事オーケーですって？本当にパパったら、哲学をやっていると我を忘れちゃうのね。理性的に考えすぎて、感じることは十分にしないんだから。そういうのは恐ろしい考えなのよ。」

## 12. 倫理とは？

- 「倫」：なかま、人間関係、「理」：ことわり、筋道
- 「倫理」：人間関係の根底にある秩序、道理
- ethics[英] → ethica[羅] → ethos[希：慣習、習俗、人柄]
- 西洋倫理学の二大潮流（義務倫理学／功利主義）
- 義務倫理学（カント）：倫理を義務（・・・すべし）に基づける
- 功利主義（ベンサム）：倫理を幸福に基づける（最大多数の最大幸福）
- 宮沢賢治「世界がぜんたい幸福にならないうちは、個人の幸福はありえない」『農民芸術概論綱要』

# 13. 和辻倫理学の隘路

- 和辻哲郎（1889～1960）：賢治より7歳年長
- 『人間の学としての倫理学』1934
- 人間：世の中、世間、人と人の間
- 倫理：人間共同体の存在根底にある歴史的・社会的な生の表現
- 「間柄」の表現としての倫理
  - 個人の義務意識から出発する西洋倫理学への批判
- 共同体主義（communitarianism）？
  - 最高の共同体としての国家（戦前：国家主義への合流？）

# 14. 賢治はコミュニタリアンか？

- 大内秀明『日本におけるコミュニタリアニズムと宇野理論』
- 大内秀明『甦るマルクスー「晩期マルクス」とコミュニタリアニズム、そして宮沢賢治』社会評論社、2022
- リベラリズム：善に対する正（正義）の優先、「負荷なき自己」、（J.ロールズ、R.ドゥォーキン）
- コミュニタリアニズム：正に対する善（共通善＝共同体の文化伝統）の優先、「文脈的自己」（C.テイラー、M.サンデル、A.マッキンタイアー）→排外主義[移民排斥]や愛国主義への傾き
- 大内は「共同体社会主義」と訳し、「労農派シンパ」の賢治を強調する。